

(6) サインゲン

主要病害虫別防除方法

病害虫名 (病原体)	農薬によらない防除	農薬による防除
モザイク病 (PSV、BYMV 普通系統、BCMV、CMV マメ科系統)	①健全株から取った種子を使用する。 ②ほ場周辺の除草を行い、伝染源を絶つ。 ③発病株を早期発見し除去する。 【参考事項】 病原ウイルスは、アブラムシ類によって伝搬されるほか、種子伝染するものもある(ウイルス病の伝染方法の項参照)。	①アブラムシ類を防除する(アブラムシ類の項参照)。
炭疽病 (<i>Colletotrichum</i>)	①無病株の健全莢から採種する。 ②発病株は早期に除去する。 ③常発地では連作を避ける。 【参考事項】 初夏に雨の多い年は発生が多い。	①種子消毒を行う(野菜種子の消毒の項参照)。 ②発生初期から農薬散布する (例) マンデストロピン水和剤(スクレアフロアブル)(豆類(未成熟、ただし、さやえんどうを除く)) ピリベンカルブ水和剤(ファンタジスタ顆粒水和剤)
苗立枯病 (<i>Pythium</i>)、	①土壌を還元状態にして太陽熱消毒を行う(土壌病害虫の防除法の項参照)。	①種子消毒を行う(野菜種子の消毒の項参照)。
根腐病、萎凋病 (<i>Fusarium</i>)、	①土壌を還元状態にして太陽熱消毒を行う(土壌病害虫の防除法の項参照)。 【参考事項】 主として厚膜胞子の形で、土壌中に4~5年以上生存する。	①種子消毒を行う(野菜種子の消毒の項参照)。 ②土壌消毒を行う。 (例) クロルピクリンくん蒸剤(クロールピクリン(根腐病)、クロピクフロー(萎凋病))
葉腐病、リゾクトニア根腐病 (<i>Rhizoctonia</i>)	①土壌を還元状態にして太陽熱消毒を行う(土壌病害虫の防除法の項参照)。	①種子消毒を行う(野菜種子の消毒の項参照)。 ②土壌消毒を行う。 (例) ダゾメット粉粒剤(ガスタード微粒剤≒バスアミド微粒剤)(葉腐病)
アブラムシ類	①防虫ネットで被覆する。 ②シルバーポリマルチをする。 ③ほ場内又は周辺の雑草を除去する。	①定植時、又はは種時に粒剤を植穴土壌混和する。 (例) イミダクロプリド粒剤(アドマイヤー1粒剤) ②発生初期から農薬散布する。 (例) アセタミプリド水溶剤(モスピラン顆粒水溶剤) ジノテフラン水溶剤(アルバリン顆粒水溶剤、スタークル顆粒水溶剤) チアメトキサム水溶剤(アクタラ顆粒水溶剤) フロニカミド水和剤(ウララDF)